

サンクゼールの丘に駐日タンザニア大使夫妻がご来訪 フィデアさんと共に取り組んだ支援活動に感謝状

2025年5月6日（火）、「久世福商店」、「St. Cousair（サンクゼール）」などの専門店を全国に約180店舗展開している、食品製造小売企業（食品SPA）の株式会社サンクゼール（本社：長野県飯綱町/代表取締役社長：久世良太）へ、駐日タンザニア大使夫妻が来訪され、長年にわたるタンザニアの孤児支援活動に対して感謝状が贈られました。サンクゼールスタッフでありタンザニア出身の小林フィデアさんによる母国孤児支援活動の歩みを紹介する展示会「ソコラココラ」の視察に合わせて来訪されたものです。サンクゼールは2009年よりフィデアさんの活動に賛同し、彼女が代表を務めるNPO法人ムワンガザ・ファンデーションを通して支援活動を行っています。



駐日タンザニア大使バラカ・ハラン・ルヴァンダ閣下夫妻は、当社取締役会長の久世良三夫妻、代表取締役社長の久世良太一家、小林フィデア一家と共に、ワイナリーレストラン・サンクゼールで昼食を楽しみました。駐日タンザニア大使は、交流の中で「この飯綱の景色は故郷に似ている。タンザニアと日本の人と人の心がつないだ橋にとっても感謝している。」とコメントされました。一方、当社会長久世良三は「私たちはたいしたお手伝いはいできませんが、会社としても個人としても粘り強く支援させていただきたい。」と決意を述べ、代表取締役社長久世良太は「子供は日本でもタンザニアでも宝です。ご縁に感謝したい。」と、タンザニアと飯綱町、そしてサンクゼールとのご縁に感謝を述べました。また展示会「ソコラココラ」会場では、駐日タンザニア大使とタンザニアの支援団体 SWACCO よりサンクゼールへ感謝状が贈られました。

2025年3月時点で、当社からNPO法人ムワンガザ・ファンデーションを通して寄付を行った合計金額は約6200万円となりました。お客様のご理解とご賛同があつてのことです。サンクゼールは、「愛と喜びのある食卓をいつまでも」をコーポレートスローガンに掲げています。私たちの事業活動により、より多くの方が「愛と喜びのある食卓」を実現できるようにサステナビリティの取り組みを推進してまいります。